

# 第2期 高松市MICE振興戦略

---





第1章 戦略策定の意義	1
第2章 MICEについて	
(1) MICEとは	2
(2) MICEがもたらす効果	3
(3) 国際MICEの潮流	5
(4) MICEに関する国の政策	6
第3章 本市におけるMICEの状況	
(1) 本市のMICEの現状	7
(2) 本市のポテンシャル	10
(3) SWOT分析	11
(4) 本市のMICEの課題	12
第4章 MICE戦略	
(1) 戦略と事業展開	13
(2) MICE振興推進体制	17
(3) 本市のMICE目標指標	18
【資料編】	
・ MICE関係施設一覧	19
・ MICE用語集	23

## <背景>

- 本市は、古くから、四国の玄関口として繁栄し、香川県の県都、また、四国の中枢管理都市として発展を遂げてきた。
- 現在、人口減少、少子・超高齢社会の進行により、いかに地域の活力を維持し、発展させていくかが大きな課題となっている。
- 今後は、「世界都市・高松」の実現に向けて、国内だけでなく、国外からも認知され、選ばれるまちとなるための取り組みが求められており、本市の豊かな自然や都市機能、過去2回開催されたサミット関係閣僚会合等の国際会議の実績を生かして、地域一体となってMICE振興を推進していく必要がある。

## <策定の趣旨>

- 本市は、「第1期 高松市MICE振興戦略」に基づき、産学官連携のもと、MICE開催における受入環境の整備や誘致強化、高松らしいMICEの創出に取り組んできたところである。
- 本市のコンベンションエリアであるサンポート地区は、今後、あなぶきアリーナ香川の完成等を控え、本市が更なるMICEの好機を迎えることから、今後より一層、本市が備える優位性や都市機能、多様な資源を活用し、MICEの誘致・開催を通じて、交流人口・関係人口の拡大を図っていく必要がある。

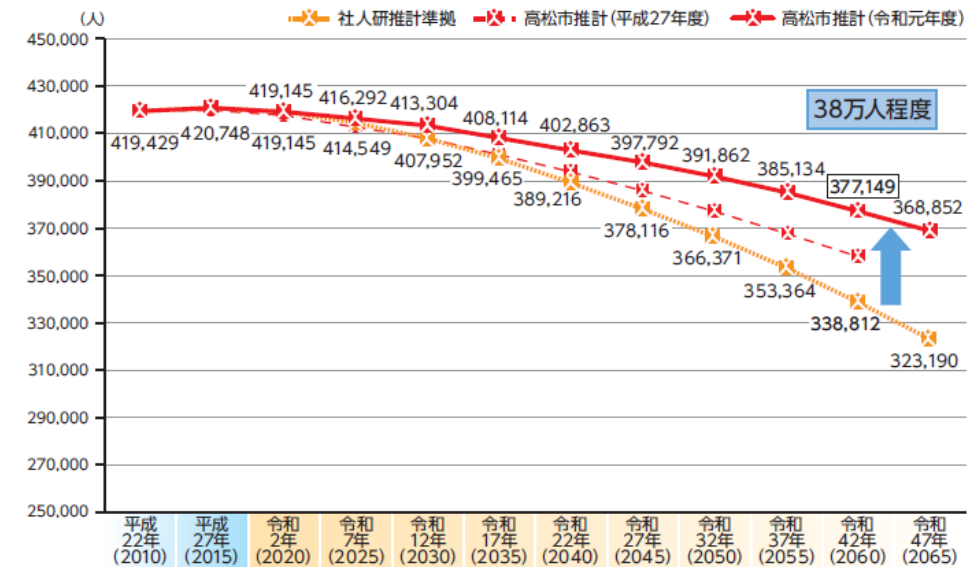
## <戦略の位置づけ>

- 本市のまちづくりや市政運営の基本となる「第7次高松市総合計画基本構想」において、目指すべき都市像の実現に向けたまちづくりの目標の一つである「魅力ある資源をいかし、都市の活力を創造するまち」を実現する上で、「地域活力の創造」を掲げ、地域への経済波及効果が期待できるMICE誘致を戦略的に推進することとしている。
- 本戦略をMICE振興のための基本的な指針とし、産学官一体となって連携を図りながら、地域の活性化に向けて、MICEの推進に取り組む。
- 本戦略の期間は、令和6年度から令和13年度までの8年間を対象とする。ただし、同期間中においても、必要に応じて、中間見直しを行うものとする。

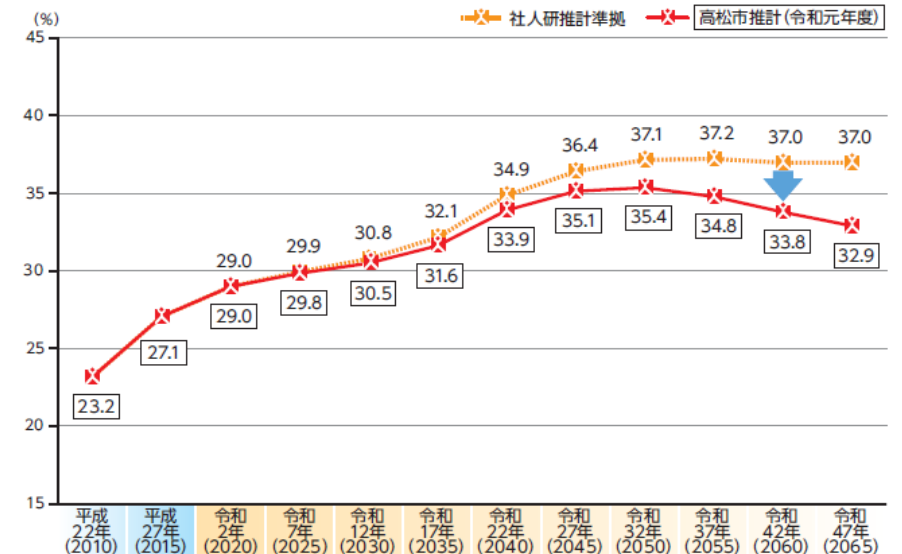
SDGs 17の目標のうち  
MICE振興に関する5つの目標



高松市の人口推移と長期的な見通し



高松市の高齢化率の推移と長期的な見通し



## 第2章 MICEについて (1) MICEとは

MICEとは、企業等の会議（Meeting）、企業等の行う報奨・研修旅行（Incentive Travel）、学術会議や国際会議等（Convention）、展示会・見本市、イベント（Exhibition/Event）の総称で、『人が集まり交流する』機会を創出するものこととする。

MICEは、企業・産業活動や研究・学会活動等と関連している場合が多いため、一般的な観光とは性格を異にする部分が多い。このため、観光振興という文脈でのみ捉えるのではなく、MICEについて、「人が集まる」という直接的な効果はもちろん、人の集積や交流から派生する付加価値などの認識を高める必要がある。

なお、本市では、集客が期待できる文化、芸術、スポーツなどのイベントも対象に含めて取組を進めるものとする。



### ①地域への経済波及効果

- MICE開催を通じた主催者、参加者等の消費支出や、それに関連した事業の実施、周辺イベントの開催などの事業支出は、MICE開催地域を中心に大きな経済波及効果を生み出す。
- MICEは会議やイベントの開催、宿泊、飲食、観光等の経済・消費活動のすそ野が広く、一般的な観光客以上に周辺地域への経済波及効果を生み出すことが期待できる。

比較項目	一般観光	MICE
誘致対象	不特定	特定
意思決定者	個人	機関・団体、企業
開催地決定要因	観光資源、経済性	会場、立地、宿泊施設、都市機能、キーパーソン、ブランド、観光資源等
プロモーション	行政、観光協会、観光業界等	コンベンション・ビューロー、行政、主催事務局、PCO※等
旅程	主要観光地を周遊	会議開催地からプレ・ポストツアーの実施
支出傾向	宿泊・交通費・飲食費・おみやげ等	宿泊・交通費・飲食費・おみやげ等 +主催者による会議場・宴会場・通訳等々の利用あり
景気の影響	景気の影響を受けやすい	数年前には開催が決定されるため、開催自体は景気等に左右されにくい

※PCO（Professional Congress Organize）…会議運営専門会社。あらゆる種類の集会、会議開催に関わる業務、又はこれに関連して派生する一切の運営行事に関わる業務を取り扱うための専門的能力を持った会社。

出典：観光庁資料を一部修正

### ②交流人口や観光客の増加

- MICEの開催は、国内外のビジネス客等の誘致につながり、新たな観光資源の開発やサービスの提供を促す。
- 本市を訪れたビジネス客等に、本市の観光や文化芸術、瀬戸内海の多島美などの魅力を感じていただくことにより、ビジネス客等が観光客としてリピーターになるなどの好循環を生みだし、更なる交流人口や観光客の増加が期待できる。
- 本市の人口は2024年3月現在、41万人規模を維持しているものの、今後は減少傾向が予測されることから、交流人口を増やすことは重要であり、MICEの開催は、その機会を得るためにも必要。

### ③ビジネス・イノベーションの機会の創造

- MICE開催を通じて、国内外から数多くの企業や学会などの関係者が本市を訪れることで、市民及び市内の企業関係者と海外の関係者とのネットワークを構築する機会を増加。
- 世界の最新情報や先端技術等に触れることで、新しいアイデアやヒントが得られ、新しいビジネスの創造や地域産業のイノベーションの機会となり、産業の活性化につながる。

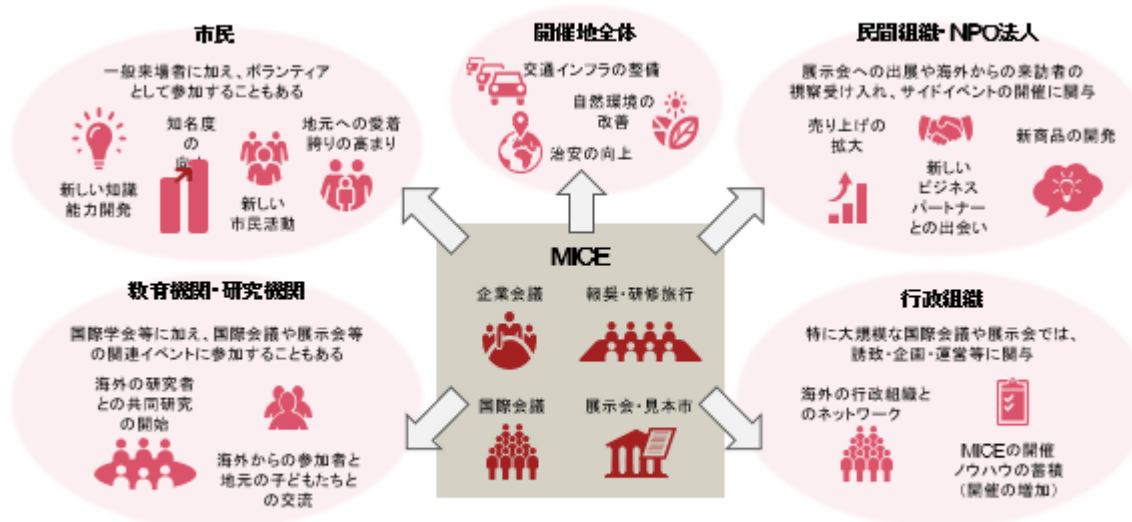
### ④都市ブランドイメージの向上

- MICE開催を通じた国内外相互の情報の流通や、ネットワークの構築などは、ビジネスや研究環境の向上、都市のブランドイメージの向上につながる。
- 都市ブランドイメージの向上は、市民の本市に対する誇りや愛着、いわゆるシビックプライドの醸成にもつながる。

### ⑤地域力・競争力の向上

- MICEの意義を地域で共有し、「宿泊」、「飲食」、「観光」及び「交通」等の多様な関連団体が連携することにより、地域力が向上し、他地域との競争力の向上につながる。

レガシー効果の波及イメージ（一例）

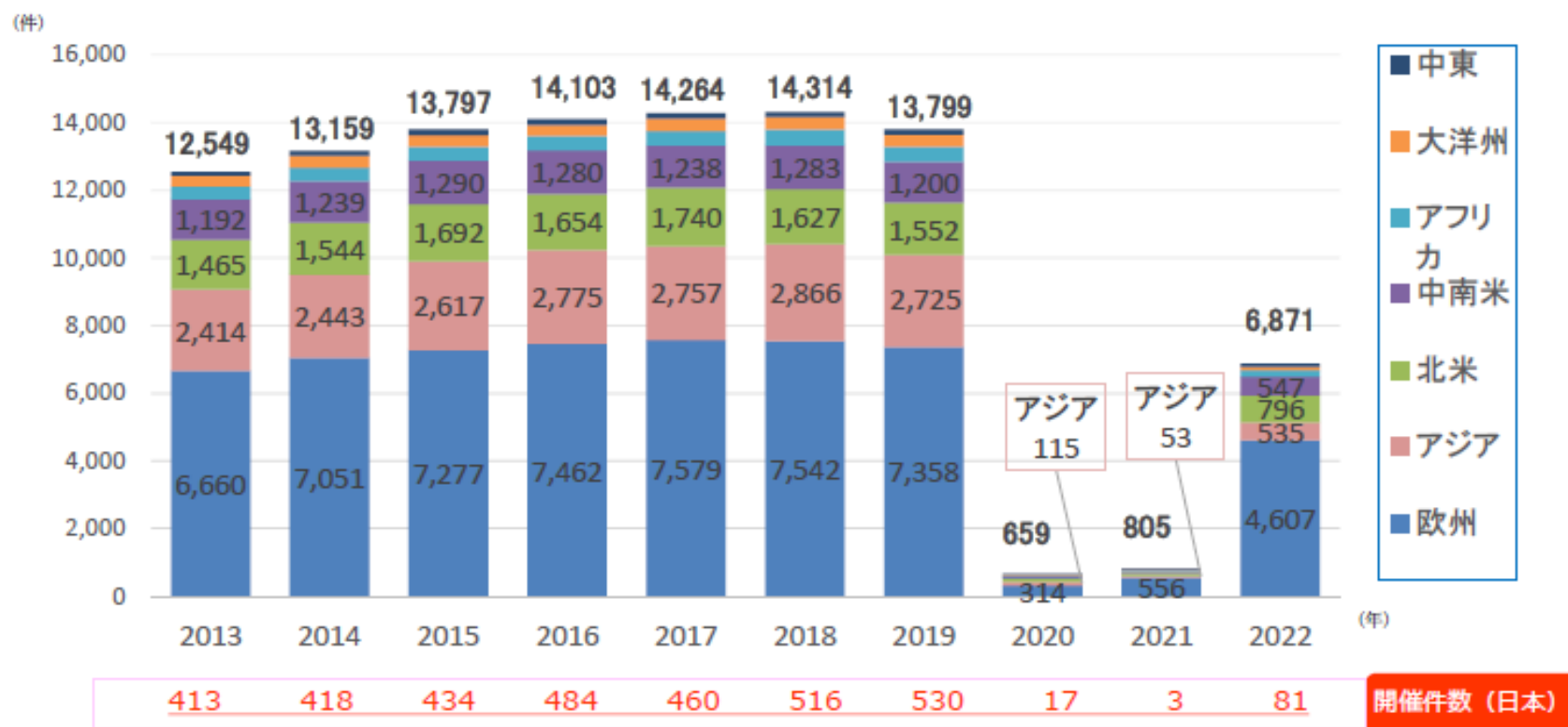


## 第2章 MICEについて（3）国際MICEの潮流

○ 世界全体の国際会議の開催件数は、2019年までの近年は横ばいであった。2020年以降は新型コロナウイルス感染症の影響で激減したが、2022年に入り急速に回復している。

- ・新型コロナウイルス感染拡大直後、ほとんどの国際会議が中止や延期となっている。
- ・2020年後半からは、オンライン形式で開催されるようになり、対面に加え、現地での参加が難しい場合はオンラインで参加するというハイブリッド形式での開催も増加している。
- ・2022年以降は、水際対策の緩和により対面の会議が復活し、参加者が実際に集まることの重要性が再認識されている。

○ 地域別の開催件数については、欧米と比べるとアジアでは回復が遅れている。



資料：ICCA（国際会議協会）資料（2023年（令和5年）5月時点）に基づき観光庁作成

注1：対面開催＝コロナ禍前と同様に開催されたもの（ハイブリッド開催は含まない）

注2：本表の各地域は、国際会議協会（ICCA）の区分に基づく



## 第2章 MICEについて（4）MICEに関する国の政策

2023年3月に閣議決定した「観光立国推進基本計画」において、MICEに係る目標として「国際会議の開催件数について、2025年までにアジア主要国における最大の開催国の地位を奪還する（アジア主要国でシェア3割以上）」ことが掲げられ、下記の取組を行うことされている。

### ① コロナによる変化を踏まえたMICE誘致・開催の意義の発信

我が国においてMICE誘致・開催への意欲や関心が低下し、世界的な誘致競争に後れをとることのないよう、MICEがもたらす経済効果や、ビジネス機会・イノベーションの創出、国や開催地のブランド力の向上、旅行需要の平準化等の**MICEの意義や効果について、コロナ禍による変化も踏まえて改めて整理し、国内関係者に発信**する。

### ② 政府一体となったMICE誘致・開催

大阪・関西万博等の開催の機会も捉え、**政府としても、各種国際会議を積極的に再開・開催するとともに、様々な分野でMICE誘致・開催への働きかけや支援**を行う。その際、関係大臣による招請レター発出、在外公館でのレセプション開催等、政府一体となったMICE誘致・開催支援を進める。

### ③ MICE開催地としての地域の魅力向上・発信

**ユニークベニューの活用促進、MICE参加者向け体験コンテンツの造成**等、MICE開催地としての地域の魅力の向上を図るほか、コンベンションビューローとDMOとの連携強化等、**MICE施策と観光施策との連携**を進める。

### ④ JNTO（日本政府観光局）等によるMICE誘致活動の強化

JNTOにおいて、我が国の強みや魅力、開催地におけるサステナビリティの取組に関する情報の発信、国際団体等へのプロモーション強化等の**MICE誘致活動を強化**する。在外公館等との連携による海外広報の強化や、コンベンションビューロー・自治体における誘致力強化への取組支援を行う。

### ⑤ MICE誘致の国際競争力の向上のための基盤整備

大学、研究機関等のMICE誘致・開催活動を促進するとともに、国内MICE関係者とMICE関連国際団体との連携強化を進める。**MICE分野の人材の確保・育成**のため、MICE関連業界の認知度向上、デジタルリテラシーやサステナビリティ等新たな課題への取組能力の向上を図る

# 第3章 本市におけるMICEの状況（1）本市のMICEの現状

## 本市におけるMICE振興戦略の取組とその成果

【コロナ禍前：～2019年】

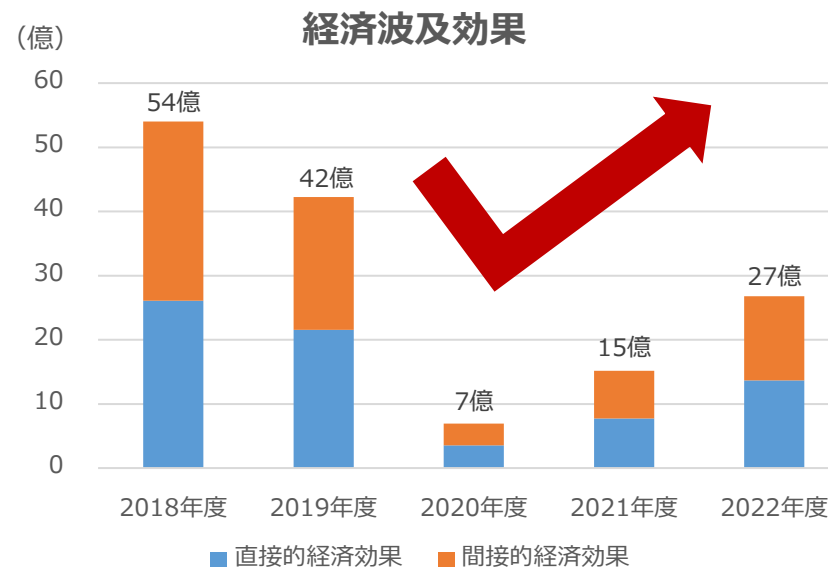
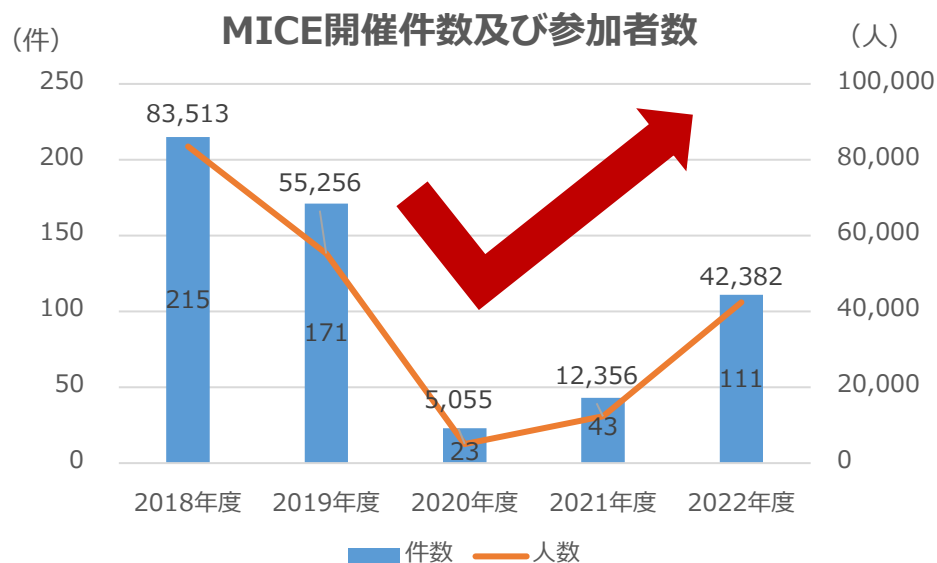
- 2016年4月、G7 香川・高松情報通信大臣会合が本市で開催された。閣僚会合が四国で開催されたのは初めて。
- 2016年度に「第1期 高松市MICE振興戦略」を策定後、首都圏や地元大学のMICEキーパーソンへのアプローチや、国際MICEエキスポをはじめとする各種共同誘致事業に積極的に取り組んだ。

【コロナ禍：2020年・2021年】

- 新型コロナウイルス感染症拡大以降は、ほとんどのMICEが中止・延期となったが、コロナ後を見据えた軸足の強化のため、下記取組みを実施。
- 安全・安心なMICE開催に向け、香川県MICE誘致推進協議会の事業を通じて、「かがわ国際会議場・展示場」がGBAC STAR™認証（国際水準の感染症対策として評価の高い認証制度）を中四国のMICE関連施設では初めて取得したほか、レクザムホールが、劇場としては国内初となるSAFE GUARDラベル（国際的な安全・衛生基準を満たす施設に発行されるラベル）を取得した。
  - MICE誘致・開催における都市の国際競争力の引き上げを図ることを目的として、その機能の強化に向けた観光庁支援事業に参画した。

【現在：2022年～】

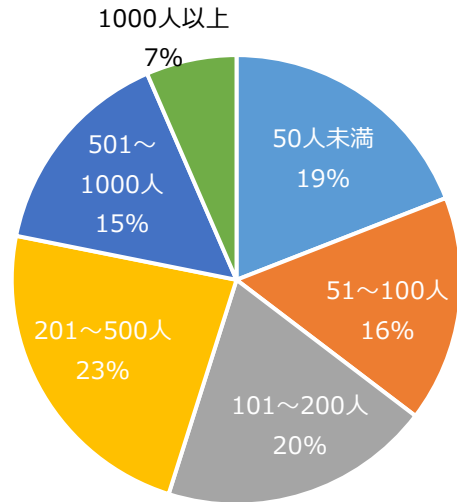
- 2022年度においては、新型コロナウイルス感染症による制限も緩和され、対面での誘致活動や商談会等への参加とオンラインによる誘致活動を組み合わせることにより、サンポートホール高松が工事中であったにもかかわらず、MICE開催件数、参加者数ともにコロナ禍前の約5割程度まで回復した。
- 2023年7月、G7 香川・高松都市大臣会合が本市で開催された。G7都市大臣会合が日本で開催されたのは初めて。



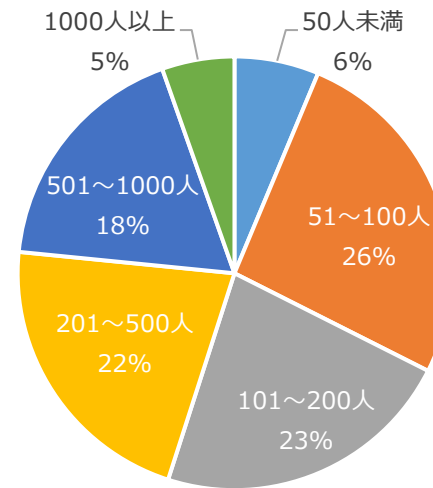
※（公財）高松観光コンベンション・ビューロー調べ。国際会議だけでなく、学会や国内大会、スポーツ大会、合宿などを含む。対象は、本市と近隣町の三木町、直島町、綾川町内におけるもの。

# 第3章 本市におけるMICEの状況（1）本市のMICEの現状

## ○参加者数別開催状況



2018年度（全215件）

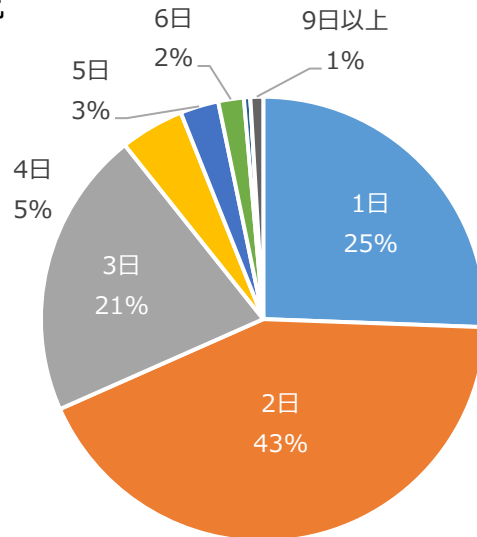


2022年度（全111件）

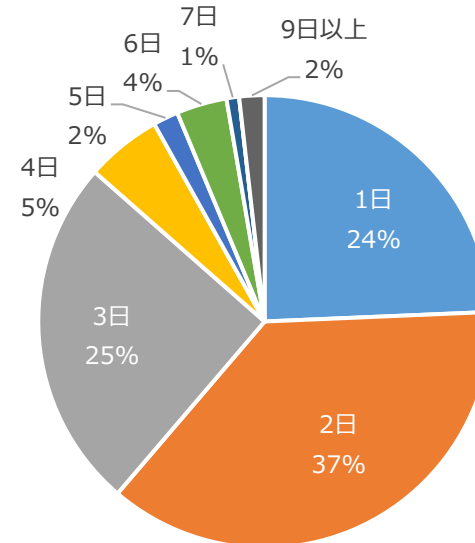
### <2022年度参加者数>

- ・「200人以下」が55%を占める
- ・「500人以下」が77%を占める

## ○開催日数別開催状況



2018年度（全215件）



2022年度（全111件）

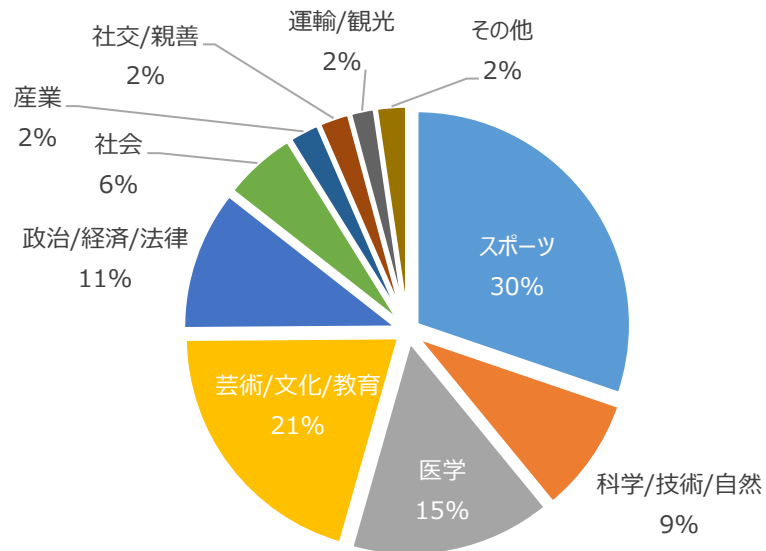
### <2022年度開催日数>

- ・「2日」が37%を占め、最も多い
- ・「3日以下」が86%を占める

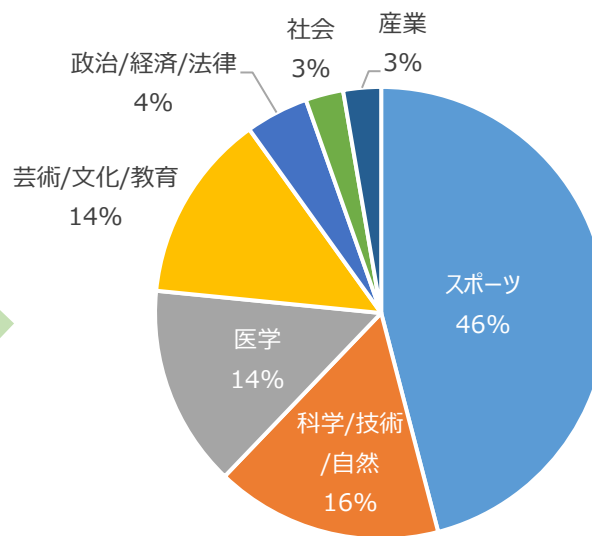
※（公財）高松観光コンベンション・ビューロー調べ。国際会議だけでなく、学会や国内大会、スポーツ大会、合宿などを含む。対象は、本市と近隣町の三木町、直島町、綾川町内におけるもの。

# 第3章 本市におけるMICEの状況（1）本市のMICEの現状

## ○分野別開催状況



2018年度（全215件）



2022年度（全111件）

### <2022年度分野>

- ・本データには「合宿」の件数が含まれているため、「スポーツ」の割合が多くなっている
- ・学会や大会においては、「科学/技術/自然」、「医学」及び「芸術/文化/教育」の割合が多い

## ○本市における国際会議開催状況（2023年開催分）

開催年月	会議名	参加者数
2023年3月	8th Rare Sugar Congress (Rare Sugar Congress 2023) (国際希少糖学会)	183名
2023年6月	国際開発者会議DBCLS BioHackathon 2023	86名
2023年7月	G 7 香川・高松都市大臣会合	167名
2023年8月	2nd Trilateral Symposium on SDGs -New Strategic Approaches Towards SDGs Beyond the COVID-19 Pandemic- (第2回香川大学・チェンマイ大学・国立嘉義大学合同シンポジウム)	209名
2023年10月	令和5年度 ICAO CAEP SG会合 in takamatsu,Japan (国際民間航空機関 航空環境保全委員会 運営グループ会合)	130名



G 7 香川・高松都市大臣会合の様子

※（公財）高松観光コンベンション・ビューロー調べ。国際会議だけでなく、学会や国内大会、スポーツ大会、合宿などを含む。対象は、本市と近隣町の三木町、直島町、綾川町内におけるもの。

# 第3章 本市におけるMICEの状況（2）本市のポテンシャル

## 【便利な交通アクセス】

- 高松空港には、現在、ソウル、上海、台北、香港への国際定期路線が就航。
- コンベンションエリアであるサンポートエリアには、JR高松駅、バスターミナル、高松港など、交通の拠点が集結。

## 【シーフロントにおけるMICE関係施設の集積】

- 本市のシーフロント、特にサンポートエリア周辺には、サンポートホール高松、かがわ国際会議場、レクザムホール、宿泊施設等が集積。2025年には、中四国最大規模のあなぶきアリーナ香川がオープン予定。
- あなぶきアリーナ香川などの新たな施設整備にあわせ、サンポートエリアのより一層のにぎわい創出を目指し、サンポート高松地区のプロムナード化を検討中。

## 【「高松Tゾーン」の豊かな観光資源】



屋島



瀬戸内海の多島美



史跡高松城跡 玉藻公園



塩江温泉郷

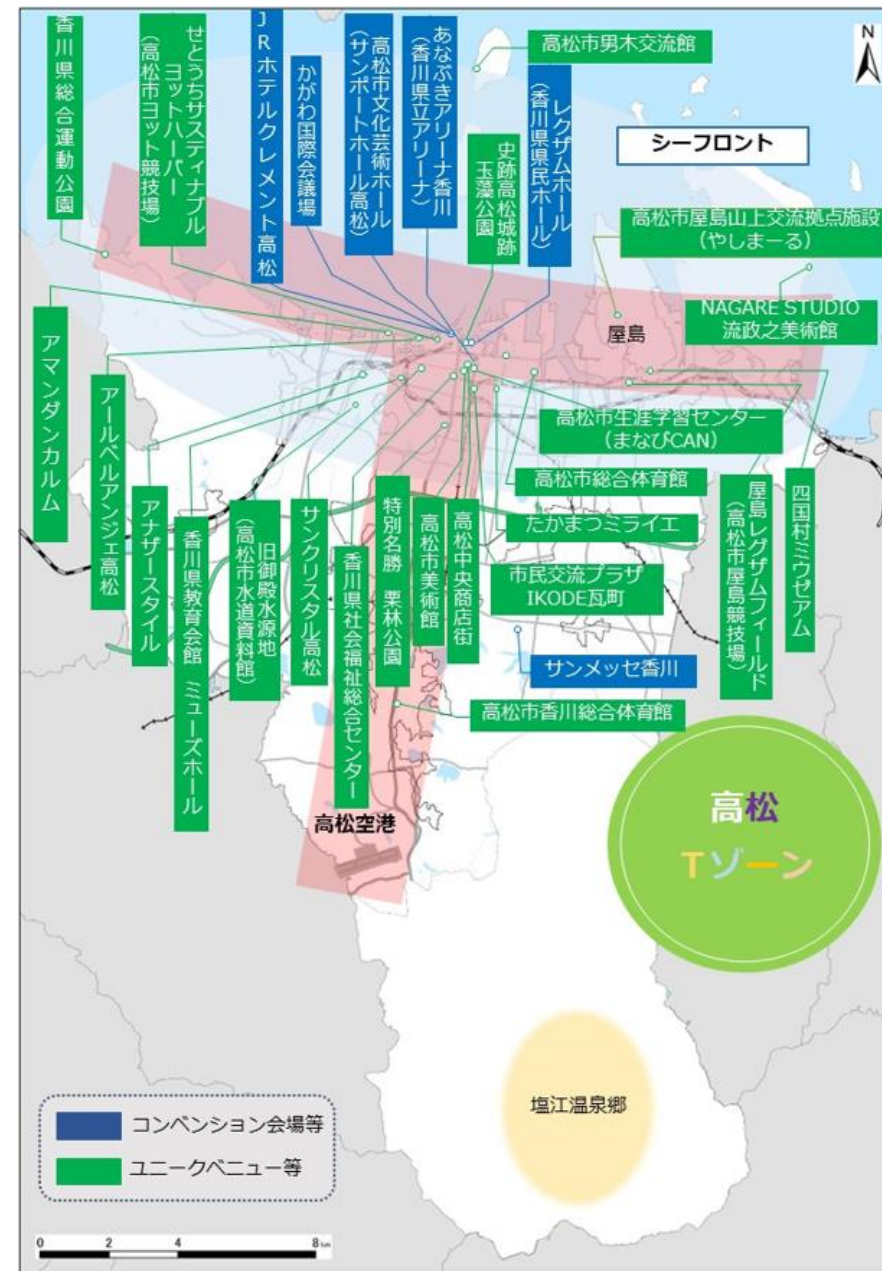


特別名勝 栗林公園

## ○ 屋島

「メサ」と呼ばれるテーブル状の台地が特徴で、歴史・文化・自然等の多面的な魅力を有する。

- ・ 1934年、瀬戸内海国立公園並びに国の史跡及び天然記念物に指定。
- ・ 2022年、屋島山上に「やしまーる」が完成。瀬戸内海の多島美景観や、山上からの夕景・夜景を活かし、エクスカーションやアフターコンベンションに活用が可能。
- ・ 2023年、屋島地区が都市景観大賞（国土交通大臣賞）を受賞。



高松Tゾーン

### 第3章 本市におけるMICEの状況（3）SWOT分析

#### 本市のMICE振興におけるSWOT分析 ※本市のMICE振興における強みと弱みを内部環境と外部環境に分けて整理

	プラス面	マイナス面
	強み (Strengths)	弱み (Weaknesses)
内部環境	<ul style="list-style-type: none"> <li>○便利な交通アクセス</li> <li>○コンパクトに集約された都市機能（駅・バスターミナル・港、MICE関係施設、宿泊施設、商業地・繁華街が集約）</li> <li>○シーフロントにおける多様なMICE関係施設（ホール、アリーナ、大学等）の集積</li> <li>○中四国最大規模のあなぶきアリーナ香川開設</li> <li>○ビジネスホテルを中心とした宿泊施設の充実</li> <li>○雄大な多島美を持つ景観資源</li> <li>○世界に通じるアート施設や展示（イサム・ノグチ庭園美術館、NAGARE STUDIO 流政之美術館、四国村ミュージアム、川島猛アートファクトリーミュージアム等）の集積</li> <li>○高松盆栽、高松中央商店街、島旅等、高松ならではの多様なコンテンツ</li> <li>○国際会議の実績蓄積（第11回アジア太平洋盆水石高松大会、第4回日仏自治体交流会議、G7香川・高松情報通信大臣会合、G7香川・高松都市大臣会合等）</li> <li>○降水量の少なさ（野外ユニークベニユーの活用機会増大）</li> <li>○瀬戸内国際芸術祭のマザーポート</li> <li>○GDS-index評価制度の取組み</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○プロモーション</li> <li>○ワンストップサポートの体制整備</li> <li>○MICE関係施設間の連携</li> <li>○デジタル対応への取組み（Wi-Fi環境等）</li> <li>○二次交通</li> <li>○ユニークベニユーやエクスカーションプログラムの開発</li> <li>○ビジネス・イノベーションの視点</li> <li>○MICE振興組織の体制整備</li> <li>○誘致・開催支援の専門的な人材の不足・グローバル対応</li> <li>○MICE振興の意義について関連団体（宿泊・飲食・観光・交通等）への啓発不足</li> <li>○市民への周知不足</li> </ul>
	機会 (Opportunities)	脅威 (Threats)
外部環境	<ul style="list-style-type: none"> <li>○インバウンド市場の急回復</li> <li>○各国でのMICEの機運拡大</li> <li>○地方創生の機運</li> <li>○地域のグローバル化の促進</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○人口減少、少子・超高齢社会の本格的な到来</li> <li>○近隣都市とのMICE競争激化</li> <li>○感染症や気候変動等による社会状況の変化</li> <li>○担い手の人材不足・働き手の人出不足</li> <li>○物価・人件費・資源の高騰</li> </ul>

### **課題1. 効果的な誘致施策の推進**

戦略的な誘致活動の推進とともに、便利な交通アクセス、シーフロントにおけるMICE関係施設の集積、「高松Tゾーン」の豊かな資源、国際会議の開催実績等、本市の強みを活かした効果的なプロモーションを行うことが必要。

#### **➤ 戦略1 戦略的なMICE誘致の推進**

### **課題2. サポート力の高い受入環境の整備**

主催者からの問い合わせにワンストップで対応する窓口の設置や複数施設の利用調整、主催者のニーズにあわせたデジタル対応や二次交通の支援等、サポート力の高い受入環境を整備することが必要。

#### **➤ 戦略2 組織的対応による開催支援の強化**

### **課題3. 多様なポテンシャルの有効活用**

本市のポテンシャルを活かして、ユニークベニユーの利用促進やエクスカージョンプログラム等の開発をすることで、他都市と区別できるMICEを開催し、競争力を向上させるとともに、地域内での消費額を高める仕組みづくりが必要。

#### **➤ 戦略3 高松の資源を活かしたMICE開催効果の最大化**

### **課題4. 持続可能なMICE都市の推進**

本市、（公財）高松観光コンベンション・ビューロー、香川県MICE誘致推進協議会を中心に、産学官市民が一体となって組織的にMICE振興を図ることが重要であり、それと同時に、MICE分野における専門性を持った人材の育成が必要。

また、MICE主催者は、開催都市を選定する際に、都市の持続可能な取組みを重視する傾向にあるため、地域一体となって、持続可能な都市を目指すことが重要。

#### **➤ 戦略4 持続可能な高松を目指した連携体制の構築**

## 戦略1 戦略的なMICE誘致の推進

これまでのコネクションを最大限に活用しながら、主催者等からの開催情報やデータベースを継続的に把握・分析し、戦略的かつ組織的な誘致活動を展開するとともに、シーフロントにおけるMICE関係施設の集積をはじめとする本市の強みを訴求できるよう、効果的なプロモーションに取り組むことで、MICEの獲得を目指す。

事業内容	主な取組内容
誘致体制の整備	<ul style="list-style-type: none"> <li>・誘致や開催支援の実績が豊富で、ノウハウのある（公財）高松観光コンベンション・ビューローの、更なる体制の強化を図る。</li> <li>・香川県MICE誘致推進協議会と効果的に連携する。</li> </ul>
主催者等からの開催情報やデータベースの活用による開催情報の把握・分析とターゲティング	<ul style="list-style-type: none"> <li>・MICEの開催情報や、主催者及び開催地決定者の情報を積極的に入手し、M・I・C・E種別ごとの開催件数や、市場動向を把握・分析することで、ターゲットを明確にして誘致活動を推進する。</li> </ul>
産学官一体となった誘致の推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学術会議では地元大学や研究機関など、政府系会議では県や国、企業系会議では地域の有力企業や経済・産業団体などと連携し、組織的な誘致活動ができるよう、地域への働きかけを図る。</li> </ul>
東京事務所等との連携	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新設される東京事務所と連携し、定期的な情報収集や誘致活動・商談会への参加等により、首都圏主催者に継続的なアプローチを行う。</li> </ul>
企業ミーティング等に対する誘致の推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>・これまであまり取り組めていなかった企業ミーティングやインセンティブ旅行等の誘致を推進する。</li> <li>・企業誘致との連携等、経済波及効果を高めるための他分野と連携した誘致を推進する。</li> </ul>
本市の強みを活かした訴求力の高いプロモーション	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本市の強みを訴求できるようなプロモーションツールを多言語対応で作成する。</li> <li>・本市ならではのユニークベニューやエクスカージョンについて、ホームページ等も活用しながら、効果的に情報発信を行う。</li> </ul>
イベントによるにぎわいの創出	<ul style="list-style-type: none"> <li>・産学官一体となって、文化・芸術イベントや祭りによるにぎわいの創出を図ることで、誘客力を高める。</li> <li>・ホール、アリーナ等の集積を活かし、各施設やイベント等の連携、公共空間の有効活用を進める。</li> </ul>



中国四国誘致懇談会  
(東京)



国際MICEエキスポ  
(東京)



セミナーでの  
プレゼンテーション



## 戦略2 組織的対応による開催支援の強化

主催者からの施設予約や問い合わせ等にワンストップで対応する窓口の設置、複数施設の利用調整、デジタルの対応や二次交通の支援等、充実した開催支援により、高松におけるMICE開催の満足度の向上を目指す。

事業内容	主な取組内容
ワンストップサポートの実施	・複数のMICE関係施設の一元的な予約や、MICE運営に関するサポート、市内滞在における支援等に対応するワンストップ窓口を設置し、主催者や参加者の利便性向上に努める。
MICE関係施設の連携の強化	・関係施設と連携し、施設利用上のルールや申請書類の共通化を目指す。 ・コンベンションエリアとなるサンポート地区におけるMICE関係施設の一体利用の推進を図り、多様なMICE開催について受入体制を整える。
デジタルを活用したMICEの開催支援	・ハイブリッド形式のMICE開催への対応や、利便性の高いオンライン予約への移行等に取り組む。
MICE補助制度内容の拡充	・現行補助金制度の投資効果を検証しながら、利用しやすい制度となるよう見直しを行うとともに、新たな支援制度の創設の検討など、内容の充実に取り組む。
主催者等への開催満足度調査の実施	・MICE開催時に、主催者及び参加者に対して、開催満足度調査・潜在ニーズ調査を実施し、結果を分析することで、主催者等のニーズの把握に努め、今後のMICE開催における満足度の向上を図る。



サンポートホール高松



出典：シンボルタワー開発株式会社

かがわ国際会議場



レクザムホール



Copyright(C)2021 Kagawa Prefectural Government and SANAA. All rights reserved.

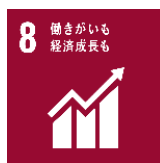
あなぶきアリーナ香川

## 戦略3 高松の資源を活かしたMICE開催効果の最大化

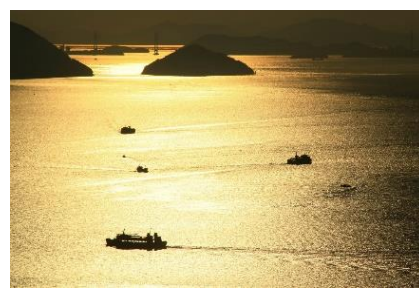
本市ならではの地域特性を生かし、ユニークベニューやエクスカーション等のプログラムを充実させ、「感動」のサービスを提供することで、本市におけるMICE開催の付加価値を生み出し、他都市との差別化を図るとともに、本市の資源等を活用したシティプロモーションの推進につなげる。

また、まちぐるみでMICE参加者を受け入れ、回遊させるしゅみを整えることで、地域内の消費を促進する。

事業内容	主な取組内容
ユニークベニューの利用促進・拡充	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「やしまーる」等をはじめとする既存ユニークベニューの新たな利用方法の検討や、利用者と施設管理者との円滑な調整を行うことで、利用を促進する。</li> <li>・高松ならではの新規ユニークベニューを拡充する。</li> </ul>
エクスカーション・アフターコンベンションの拡充	<ul style="list-style-type: none"> <li>・瀬戸内海の多島美の景観を活かしたサンセットクルーズや、点在するアート施設巡りなどのまち歩き観光等、地域資源を生かした、持続可能な高松ならではのメニューを拡充する。</li> <li>・和三盆作り体験、盆栽体験、うどん打ち体験等、高松ならではの体験コンテンツを拡充する。</li> <li>・空港施設見学やナイトコンテンツ等、多様化する需要に柔軟に対応する。</li> </ul>
産業視察・環境視察の受入先の拡充	<ul style="list-style-type: none"> <li>・商店街活性化の事例として全国的に注目を集めている高松中央商店街の視察等を継続するとともに、産業視察の新たなメニューの創出に取り組む。</li> <li>・環境に先進的な取組みをしている企業を環境視察の受入先として拡充し、MICEサステナビリティを推進する。</li> </ul>
イノベーションの機会の創出	<ul style="list-style-type: none"> <li>・第11回アジア太平洋盆栽水石高松大会が盆栽の魅力の世界へ発信する一助となったように、本市の地域特性を生かしたMICEを開催することで、ビジネス機会の増大や新しいビジネスの創出など、産業の活性化につなげる。</li> </ul>



高松市屋島山上交流拠点施設「やしまーる」



瀬戸内海の多島美の景観を活かしたサンセットクルーズ



盆栽体験



商店街活性化の事例として全国的に注目を集めている高松中央商店街

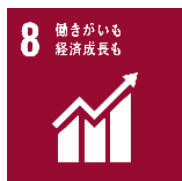
## 戦略4 持続可能な高松を目指した連携体制の構築

MICE振興による持続可能なまちづくりを推進するためには、自治体や地域のコンベンション・ビューローが単体で動くのではなく、MICE関係施設をはじめとする関連団体や、大学等の教育機関、さらには市民との連携が不可欠であるため、産学官の連携を促進するとともに、市民も巻き込んで、オール高松による連携体制を構築するとともに、MICE分野における人材の育成を図る。

また、国際的な評価指標の活用を通じて持続可能な都市を目指す。

事業内容	主な取組内容
異業種関連団体との連携体制の構築	<ul style="list-style-type: none"> <li>「MICE関係施設」、「宿泊」、「飲食」、「観光」、「交通」及び「教育機関」等の多様な関連団体が、定期的な情報交換等を行い、利便性向上のための連携や、個々のサービス品質の向上などをおして、産学官の連携体制の構築を図る。</li> </ul>
MICE分野における人材の育成・確保	<ul style="list-style-type: none"> <li>MICE誘致・開催支援に必要な専門人材を育成・確保する。</li> <li>各コンテンツの担い手やガイド人材を育成・確保する。</li> <li>MICE需要が高まった際に対応可能な人材を確保する。</li> </ul>
市民向けMICE啓発セミナー等の開催による機運の醸成	<ul style="list-style-type: none"> <li>市民向けのMICE啓発セミナーや、開催されるMICEのテーマに関連した市民公開講座、イベント（G7香川・高松都市大臣会合にあわせて開催したシンポジウム等）を実施することで、市民が直接MICEに触れる機会を提供し、本市におけるMICE振興の機運醸成に努める。</li> </ul>
国際的な評価指標の活用	<ul style="list-style-type: none"> <li>GDS-Index※を活用したMICEにおける都市のサステナビリティ度を可視化する評価制度を契機とし、持続可能なMICE都市を目指す。</li> </ul>

※GDS-Index…MICE分野における都市のサステナビリティを測る国際的な評価指標。指標は、環境分野、交通分野、観光分野など、都市を構成する幅広い分野に渡る。



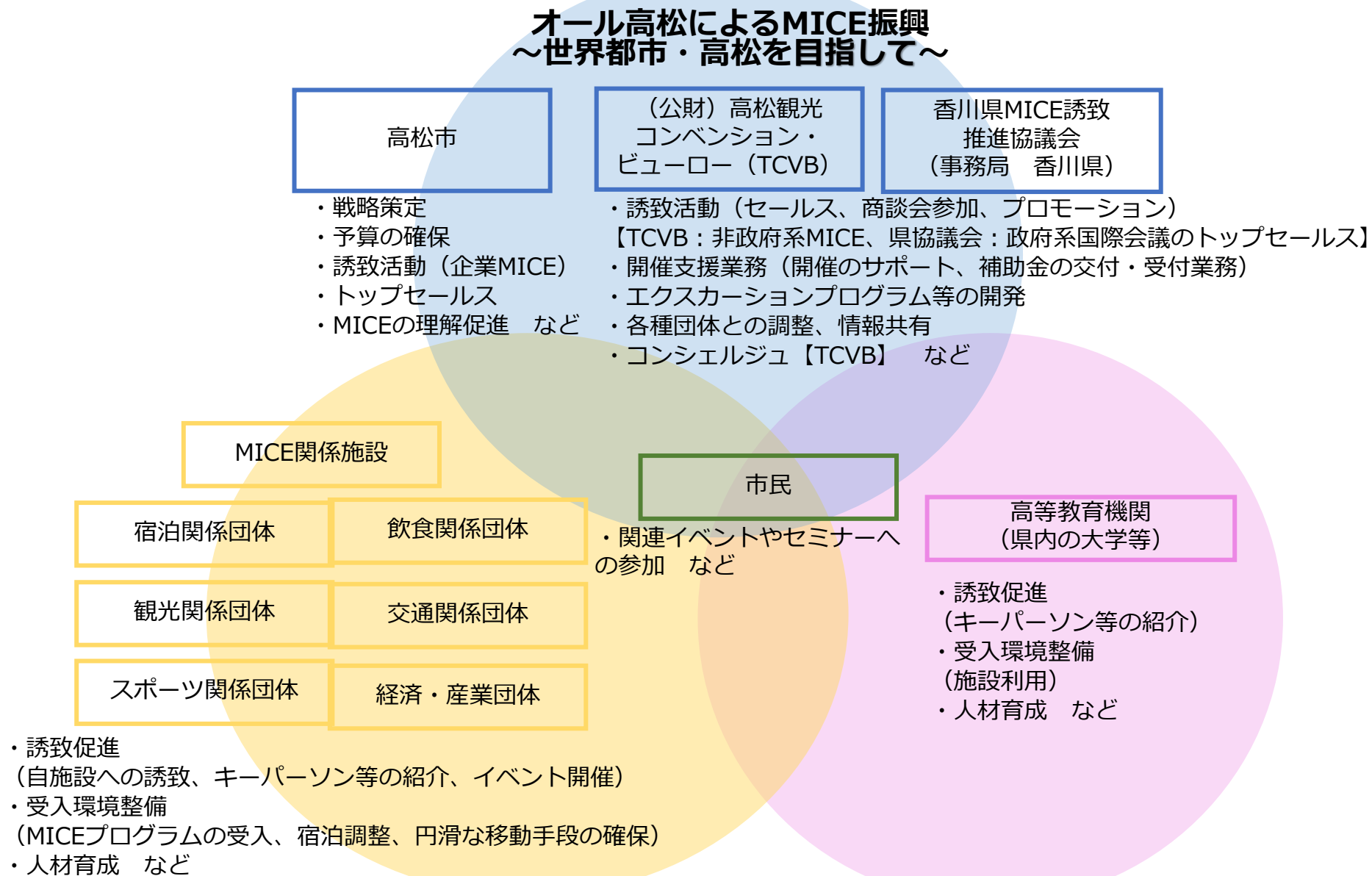
G7香川・高松都市大臣会合開催に際して開催された市民向けのシンポジウム



シンポジウム開催に際して開催されたサンポート周辺イベント

## 第4章 MICE戦略（2）MICE振興推進体制

○本市、（公財）高松観光コンベンション・ビューロー、香川県MICE誘致推進協議会が中心となり、誘致活動や開催支援、産学官連携を促進するとともに、市民も巻き込んで組織的にMICE振興を推進する。



## 第4章 MICE戦略（3）本市のMICE目標指標

○本市のMICE振興における数値目標を次のように設定し、戦略的に事業を実施していく。

	現状 【2023年度】 ※国際会議開催件数は 2023年	目標 【2031年度】 ※国際会議開催件数は 2031年	—参考— 過去最高値
MICE開催件数※ <sup>1</sup>	128件	300件	226件 (2017年度)
国際会議開催件数※ <sup>2</sup>	5件	10件	5件 (2015～2017年)
経済波及効果※ <sup>3</sup>	27億円 (2022年度)	80億円	66億円 (2017年度)
主催者の満足度※ <sup>4</sup>	—	80%	—

※1 MICE開催件数：（公財）高松観光コンベンション・ビューローのコンベンション統計におけるMICE開催件数を目標として設定する。件数は、本市と近隣町の三木町、直島町、綾川町で開催されたもので、国際会議を始め、学会や国内大会、スポーツ大会、合宿などを対象としている（香川県内で開催され、補助金を交付したスポーツ大会、合宿を含む）。

※2 国際会議開催件数：日本政府観光局（JNTO）の国際会議統計における国際会議件数を目標として設定する。対象は、本市内で開催されるものとする。

※3 経済波及効果：（公財）高松観光コンベンション・ビューローの調査する経済波及効果の分析結果を目標として設定する。対象は、本市と近隣町の三木町、直島町、綾川町内における効果とする。

※4 主催者の満足度：（公財）高松観光コンベンション・ビューローの実施する開催満足度調査の分析結果を目標として設定する。

○コンベンション会場等

名称	内容	最大収容人数
高松市文化芸術ホール 「サンポートホール高松」	サンポート高松の中核施設「高松シンボルタワー」内にあるコンベンション機能を有する施設。大ホールと2つの小ホール、12室の会議室を備えており、開催規模に応じた様々な会議、ミーティングなどのMICE開催も可能。	大ホール 1,500席
かがわ国際会議場	サンポート高松の中核施設「高松シンボルタワー」内にある会議場。国際会議などのコンベンションの他、展示会・セミナー・社内会議など様々な形態のMICE開催が可能。	かがわ国際会議場 300席 + 90席（2階席）
レクザムホール (香川県民ホール)	香川県内最大規模のホール。2,001人収容の大ホールと807人収容の小ホールがあり、会議などを行えるほか、表彰式などの場としても利用できる。また、6階にあるレストランは、会議後の食事の場などにも利用できる。	大ホール 2,001席
あなぶきアリーナ香川 (香川県立アリーナ)	香川県がサンポート高松地区に整備中の、中四国最大級の収容人数を誇る多目的アリーナ。固定席5,000席以上のメインアリーナのほか、中規模な大会の会場にも利用できるサブアリーナなどを有し、スポーツ大会だけでなく、コンサート等の大規模イベント、学会、展示会、見本市などの多様な規模や内容のMICE開催も可能となるほか、周辺施設との連携により、複合的な利用も期待できる。2025年オープン予定。	メインアリーナ 約10,000人 (センターステージ時) 約7,400人 (エンドステージ時)
JRホテルクレメント高松	JR高松駅より徒歩1分。国際会議などあらゆるニーズに対応できる大中小の宴会場があり、大宴会場で1,680名、中宴会場では670名の会議などが行えるほか、食事では全室を利用し最大1,800名ビュッフェスタイルの会食が可能。	大宴会場 1,680席 (シアター配席時)
サンメッセ香川	香川インテリジェントパーク内にある総合コンベンション施設。大小様々な展示場・会議室があり、大規模なイベント・見本市から少人数の勉強会まで幅広く活用できる。	大展示場 4,000席 (シアター配席時)

○アフターコンベンション、ユニークベニュー等

名称	内容
史跡高松城跡 玉藻公園	日本三大水城、高松城。松平家当主の来賓をもてなすところとして使われていた披雲閣は大正時代を象徴する書院造の建物で、国の重要文化財にも指定されている。和と洋の共存ができる場所での会議やランチ、レセプションの開催ができる。
特別名勝 栗林公園	6つの池と13の築山がある回遊式大名庭園。明治時代に建てられた商工奨励館は、その趣を残しつつ2015年に内装を一新。北館には飲食を伴う式典やレセプション会場としても利用が可能なホールを備えている。また、園内には、抹茶や煎茶、食事を楽しむ施設がある。
屋島	古代山城屋嶋城、源平合戦古戦場、四国遍路の霊場地屋島寺があり、我が国で最初の国立公園にも選ばれた観光地。MICE開催時のアフターコンベンションのルートとして提案でき、高松らしいMICE開催には不可欠な要素です。高松市屋島山上拠点施設「やしまーる」を会議や式典、エクスクーシヨンの会場とした場合には、その後、夜景を楽しむなどのアフターコンベンションも提案できる。
屋島レクザムフィールド (高松市屋島競技場)	四国大会等の陸上競技大会が開催可能な「第2種公認陸上競技場」として整備された競技場。収容人数6,000人の観覧席を設けている。また、全国初となる棒高跳の公認競技が可能な室内競技場も併設。スポーツ関連のMICE誘致において活用できるほか、様々な式典などにも利用できる。
瀬戸内海の島々 (女木島、男木島、大島など)	瀬戸内の多島美を体感できる島々は、瀬戸内国際芸術祭で世界中から人々が訪れるなど注目を集める観光地であり、都市部からのアクセスが容易な島々は世界でも類を見ないことから、島々でのエクスクーシヨンの提案は高松らしさを強く印象付けるものとなる。また、島々を巡るアフターコンベンションルートを提案するなど、高松らしいMICEを実現するための大きな要素となる。
塩江温泉郷	高松空港からのアクセスも良く、高松市中心部からも約40分で移動できることから、エクスクーシオン会場として利用できるほか、アフターコンベンション提案の際に活用できる。
高松中央商店街	8つの商店街で形成される長さ2.7kmに及ぶアーケードは日本一の長さを誇り、全国有数の商業機能を有している。なかでも、高松丸亀町商店街は、史跡高松城跡 玉藻公園の南に延びる全長470 mの築城以来約 420 年の伝統ある商店街であり、民間主導の市街地再開発事業として、全国的にも注目を集めた。視察などエクスクーシヨンの場としてはもちろん、アフターコンベンションの提案も可能。また、高松丸亀町壱番街前ドーム広場はレセプションやイベントでも活用されている。

名称	内容
高松市美術館	高松市中心部に位置する都市型の市立美術館。高松中央商店街に隣接し、MICE誘致の中心となるシーフロントエリアからも徒歩圏内に位置するため、講演会やエキスカージン会場などに幅広く活用できる。
たかまつミライエ	子育て支援や子どもの学習を目的とした複合施設。式典やエキスカージン会場として利用できるほか、交流スペースや図書館、プラネタリウムは、アフターコンベンションにも活用できる。また、多目的室でのミーティングや講演会も開催でき、子どもに関するMICEに当たっては、市民とのワークショップなどの開催も可能。
サンクリスタル高松	菊池寛記念館、歴史資料館、中央図書館から成るサンクリスタル高松は、本市の偉人や歴史を知ることのできる文化施設。館内にはホール等を備えており、小規模の文化的な講演会や会合などのアフターコンベンション会場として活用できる。
旧御殿水源地 (高松市水道資料館)	大正時代に建設された旧御殿浄水場を改修した水道のミュージアム。平屋建ての小規模施設ながら国の登録有形文化財にもなっている。
市民交流プラザ IKODE瓦町	瓦町FLAG（ことでん瓦町駅ビル）内にある市民交流施設。小規模な会議等の開催や展示、ワークショップ等の場としても活用できる。
高松市生涯学習センター (まなびCAN)	ことでん片原町駅下車すぐの片原町東部商店街に面した生涯学習施設。繁華街に位置しており近隣には飲食店も多く、アフターコンベンションにも最適。会議・講演・イベント等を開催できる多目的ホール（定員220人）を始め、大・小研修室や和室のほか、OA実習室・音楽室などを備えており、交流の場として利用可能。
せとうちサステイナブルヨットハーバー (高松市ヨット競技場)	四国随一のヨットハーバーとして開設以来、平成29年にリニューアルオープン。サンポートエリアから徒歩圏内で、テラスから見える瀬戸内海の夕陽は絶景。
四国村ミュージアム	瀬戸内海国立公園内で風光明媚な屋島の麓にある古民家の野外博物館。約5万㎡の敷地に江戸～大正時代の古民家や建造物が立ち並び、桜や紅葉など四季の自然の中を散策しながら、四国の伝統的な産業や昔の人々の暮らしぶりに触れることができる。村内にある安藤忠雄氏設計の「四国村ギャラリー」では、美術品はもちろん、讃岐平野を一望する眺めが美しい水景庭園も楽しめる。
高松市男木交流館	貝殻をイメージした白い屋根には8つの言語の文字がデザインされており、船の待合所である建物自体が現代アートになっている。男木交流館は島の観光案内や島民と島を訪れた人々との交流の場として活用されており、男木島の名所となっている。



名称	内容
アールベルアンジェ高松 ／アナザースタイル ／アマンダンカルム	JR高松駅から車で10分以内。瀬戸内海が一望できる会場として平日利用可能な結婚式場。
NAGARE STUDIO 流政之美術館	彫刻作品と海を背景に、生前の流が多くのごゲストを招いてきた場所でもある。屋外に天台と名付けられた庭では、NYワールドトレードセンターにも設置されていた「雲の砦」の原型など、代表作を展示。ガーデンパーティーにも利用可能。
香川県教育会館 ミュージズホール	コンサート、演劇、ダンスパフォーマンス、講演会、研修会等を行える404席（可動式で平土間としての利用も可能）のホールのほか、30～90㎡の大小7つの会議室、約80台収容の無料駐車場がある。
香川県社会福祉総合センター	社会福祉活動の中核拠点として、お年寄りや障害をもつ方々はもとより、だれもが気軽に立ち寄り、社会福祉活動に参加できるよう整備された施設。講演会や発表会、小劇場、映画会などに利用可能。
ことでん貸切電車	貸切列車の車内では、風景を楽しみながらの食事や、パーティや楽器の演奏・演劇など、従来の電車という枠にとらわれず、様々な設定で利用できる。オプションでヘッドマークの作成ができ、貸切電車終了後は、記念に持ち帰りができる。また、仏生山車両工場の見学（平日のみ）も可能。
高松市立中央公園	市街地の中心部に位置する高松市を代表する都市公園。公園内には香川県出身の偉人の銅像をはじめ、芸術家によるアート作品が数多く建てられており、年間を通して数々のイベントが行われ、多くの人で賑わう。
高松市立仏生山公園	市民に親しまれている総合公園。春にはサクラ、ツツジが咲き乱れる花見の名所として人気があり、秋にはケヤキを中心に紅葉や多種、大輪のダリアが楽しめる。



### ◎アフターコンベンション

会議日程終了後、又は会議時間終了後に引き続いて計画されている各種の行事。自由行動としての周辺地域でのショッピング、娯楽などの活動も含めるのが一般的。

### ◎インバウンド（Inbound）

訪日外国人旅行や旅行者のこと。これに対し、自国から外国へ出かける旅行をアウトバウンド（Outbound）又は海外旅行という。

### ◎エクスカーション

会議公式プログラムの一部として、会議参加者及びその同伴者のために計画された、レクリエーションのための小旅行や遊覧。「ツアー」（Tour）ともいう。プログラムに関連した視察旅行も含む。

### ◎コンベンション・ビューロー（Convention Bureau）

コンベンション誘致等を目的として、地域のMICE関連事業者等とともに都市のマーケティングなどを担う非営利組織。観光部門を持つ組織の場合は、コンベンション・ビジターズ・ビューローという。本市においては、（公財）高松観光コンベンション・ビューローがその役割を担う。

### ◎コンベンション法

国際会議等の誘致開催を促進する法律で1994年に施行。正式名称は「国際会議等の誘致の促進及び開催の円滑化等による国際観光の振興に関する法律」。国際会議観光都市の認定には、以下の条件が必要とされている。

#### （第5条 抜粋）

- 一 国土交通省令で定める基準に適合する前条第2項第1号に規定する施設が整備されていること又は整備されることが確実であること。
- 二 国際観光ホテル整備法（昭和24年法律第279号）第3条の登録を受けたホテルその他の前条第2項第2号に規定する施設で国土交通省令で定める基準に適合するものが整備されていること又は整備されることが確実であること。
- 三 専ら国際会議等の誘致及びその開催の円滑化に関する業務として国土交通省令で定めるものを実施する機関その他の国際会議等の誘致及びその開催の円滑化に関する業務を適確に遂行するに足る体制が整備されていること。
- 四 当該市町村の区域又はその近傍に国際会議等に参加する外国人観光旅客の観光の魅力の増進に資する観光資源が存在すること。

### ◎DMO（Destination Management/Marketing Organization）

様々な地域資源を組み合わせた観光地の一体的なブランドづくり、ウェブ・SNS等を活用した情報発信・プロモーション、効果的なマーケティング、戦略策定等について、地域が主体となって行う観光地域づくりの推進主体。観光庁が定義する日本版DMOは、地域の「稼ぐ力」を引き出すとともに地域への誇りと愛着を醸成する「観光地経営」の視点に立った観光地域づくりの舵取り役。多様な関係者と協同しながら、明確なコンセプトに基づいた観光地域づくりを実現するための戦略を策定するとともに、戦略を着実に実施するための調整機能を備える。

### ◎PCO (Professional Congress Organize)

会議運営専門会社。あらゆる種類の集会、会議開催に関わる業務、又はこれに関連して派生する一切の運営行事に関わる業務を取り扱うための専門的能力を持った会社。

### ◎プログラム

行事のスケジュール。各イベント開催の時間と場所の詳細が示される。

### ◎ユニークベニュー

歴史的建造物、文化施設や公的空間等を活用して会議やレセプションを開催することで、特別感や地域特性を演出できる会場のこと。

### < (公財) 高松観光コンベンション・ビューローの「コンベンション統計」 >

本市と近隣町の三木町、直島町、綾川町で開催された（香川県内で開催され、補助金を交付したスポーツ大会、合宿含む）四国規模以上の大会について、主催者、宿泊施設、会議施設等からの情報をもとに作成。

### < 日本政府観光局 (JNTO) 基準 >

以下の①～④を全て満たす国際会議を、「国際会議」とする。

- ①主 催 者：「国際機関・国際団体（各国支部を含む）」又は「国家機関・国内団体」（各々の定義が明確ではないため、「特定企業の利益を追求することを目的とした会議」の主催者を除く全てが対象となる。）
- ②参加者総数：50名以上
- ③参 加 国：日本を含む3か国以上
- ④開 催 期 間：1日以上

### ※参考

#### < 国際会議協会 (ICCA) 統計の国際会議選定基準 >

国際機関・国際団体（各国支部を含む）、又は国家機関・国内団体（各々の定義が明確ではないため、民間企業以外は全て）が主催する会議で、以下の条件を満たしていること

- 1.参加者総数が50名以上
- 2.定期的で開催される（1回だけ開催されたものは除外される）
- 3.3か国以上での会議持ち回りがある（2か国間会議は除外される）

気持ち  まる、高松。

第2期 高松市MICE振興戦略

令和6年3月  
高松市創造都市推進局観光交流課